

友達と仲間（酵母コミュニティ）を大切に

西澤正文（慶應大・医・微生物）

自分もついに「私の履歴書」みたいなものを書く時が来たのかという思いですが、そんなものでも綴りかつお話しすることで何かのお役に立つことがあればと、その概要をここに記させていただきます。

学生時代に培われた研究活動の基本

学生時代はカビの酵素の精製がテーマでしたが、貧乏研究室だったもので、自分であれこれ工夫したり（指導はほぼゼロ）、そこら中に頭を下げて借りに行ったりもらいに行ったりと、その後の研究活動の基本がこの時に培われた気がします。大学院修了後アメリカに行った時が酵母との初めての出会いでしたが、当時 *sec mutant* が報告されたばかりで、その後追いをすることになりましたが、変なものをとってしまったばかりに、学会の場で Novick や Schekman にボコボコにされてしまいました。

企業での研究とナショプロ

帰国後、今は無くなってしまった三菱生命研にポスドクで入り、その後三菱化成の総研に採用してもらいました。最初は通産省（当時）のナショプロで雇ってもらったわけですが、四半世紀の後、今度は NEDO プロジェクト（経産省）に参加して、ナショプロというのは時間が経ってもちっとも変わらないと実感しました。自由に基盤技術を開発してくれと言う触れ込みが、2年もしないうちに数値目標が登場するというパターンです。企業の研究所というのもよい体験でしたが、私の論文の Citation index のトップ 3 の内 2 つがそのときの成果というのも感慨深いものがあります。

酵母の GAL と PHO

その後、慶應に移って今に至りますが、当初は転写制御研究の継続で Gal11 の研究に携わりました。仲介因子 (Mediator) の概念をぶち上げたのは我々のグループが世界で最初と自負しているのですが、今では Gal11 は Mediator complex の中に埋もれてしまっています。東江先生に誘われて Pho85 の研究を始めることとなりましたが、そのおかげで細胞周期やストレス応答に研究を拡げることができました。今では、Pho85 は PHO system の制御だけでなく、細胞を取り巻く良好な環境条件を監視して、不必要な遺伝子発現を抑えることで細胞周期制御やストレス応答を含む広範囲な細胞機能に関与しているとわかってきましたが、そのおかげで商売敵が増えてきます。間違いを公然と発表するラボもあれば（先に出されると辛い）、ビッグラボが二つも参入してきたり、こちらは B29 に竹槍（古い）はてまた蠅螂の斧の精神で立ち向かうしかありません。幸いにも多くの人たちの助けを借りて、何とか今まで仕事を続けてくることができました。

学生時代に培った研究活動の基本が身を助けてくれたわけですが、それを可能にしてくれたのは人脈とフリーな酵母コミュニティだと思っています。今回のシンポジウムの趣旨にもあるように、これから酵母研究はますます生物種の枠を超えて展開していくでしょう。若手研究者の皆様が、様々な分野の研究者と仲良くなり、酵母コミュニティの自由な雰囲気という良き伝統を維持し、更に拡げていくことを心より願っています。